

1990年度

積雪期から  
GWまでの  
山行報告

信州大学山岳会

12月1日の山行

● 目次 ●

・ 戸隠 P1 尾根 (1), 114 岳 定基 (2), 乗鞍 又子 - (2), 北 鎌 尾 根 (3, 4)

114 岳 P2 中 南 嶺 ~ 小 同 心 嶺 (5), 戸 隠 P1 尾 根 (6), 114 岳 南 沢 (7)

2日の山行

・ 114 岳 西 面 (9), 赤 岳 北 峰 114 平 (8), 鋸 岳 - 甲 斐 駒 岳 (9, 10)

114 岳 中 山 尾 根 (10), 北 下 縦 走 (11), 戸 隠 P3 尾 根 (11)

前 穂 北 尾 根 (12),

3日の山行

・ 114 岳 (12), 剣 早 月 尾 根 (13), 中 下 縦 走 (13)

・ 南 下 縦 走 (14 ~ 18), 南 下 縦 走 に お け る 凍 傷 の 報 告 (18)

昔 の 南 下 総 括 (19 ~ 22)

GW 合 宿 の 報 告 (21)

春 山 ~ GW の 個 人 の 反 省 (22 ~ 23)

作 文 コ ー ス - (24)

戸 隠 . 西 岳 P1 尾 根 L 豊 田 . 中 村 . 河 西

12/2 ○ 11:30 上 橋 川 の 集 落 ——— ○ 15:00 1500 米 行 道 TS

上 橋 川 左 岸 か ら 右 岸 に 渡 る 必 ず 皆 伐 ま れ て … 寸 迷 う

天 狗 原 は 林 道 が 走 り 幻 滅 し た が、こ こ か ら 見 る 戸 隠 は 日 本 離 れ  
し た 風 景 で …

12/3 ○ 8:30 TS 砦 ——— ○ 8:40 熊 の 遊 び 場 ——— ○ 10:30

無 念 の 峰 ——— ○ 12:00 P1 道 下 の プラ フト - 手 前 こ こ で 引 き 返 す ———

○ 15:00 TS 15:30 砦 ——— ○ 17:00 上 橋 川

戸 隠 は 穂 高 の 1/2, そ の 他 の 北 信 の 山 は 南 下 の 1/2 くら い こ こ まで

い い 所 だ、下 へ 下 へ 下 へ …

熊 の 遊 び 場 か ら ガ イ ル は 出 発 は せ ず、セ カ ン ト は コ マ ー ル 使 用

帰 り は 懸 垂、又 是 が 埋 る 春 は ツ ラ イ で し ょ う (記、河 西)

ハヶ岳 定着

L 豊田, 牧野, 兼岩, 植垣, 加藤, 藤江

12/9 ⊗

6:15 美濃戸山荘 — 8:30 行者小屋 B.C

赤岳縦走隊 L 加藤, 兼岩, 植垣, 藤江

9:00 B.C — 10:55 赤岳頂上小屋 — 12:25 B.C

初めは硫黄岳まで行く予定であつたが、時間的問題と天候のため途中で打ち切り地蔵を下降した。稜線上は風雪が強くまつ毛が凍つてしまつた。記 加藤

10. 阿弥蛇北陵 L 兼岩, 加藤 L 豊田, 藤江

① 7:15 B.C — ① 8:10 取りつき 2セツク 95m, 50m ① 9:45 終  
— ① 10:30 セ-7 — ① 11:45 B.C

石巻隊と合流

① 15:20 B.C — ① 16:45 美濃戸

第一岩峰を右からとりついでしまい苦しい思いをした。おとは天気もよく快適であつた。

乗鞍岳 スキー山行 L 中村, 河西, 竹前

12/9 ⊗ 7:30 白骨温泉 — 1500米付近からスキー着用 — ⊗

13:30 3十石峠小屋

12/10 ○ 9:00 小屋荘 — ○ 12:00 硫黄岳 — ○ 13:00

スカイライン — 頂上へは行かずスカイラインを下る — ○ 17:00

スキー場

10日は天気が悪いと決めこんでいたので時間がなく山頂に行けず残念だつた。それにしてもスキーは全然もぐらすうッ

セルにワカンを使うなんてアホらしくてイヤになりそうです

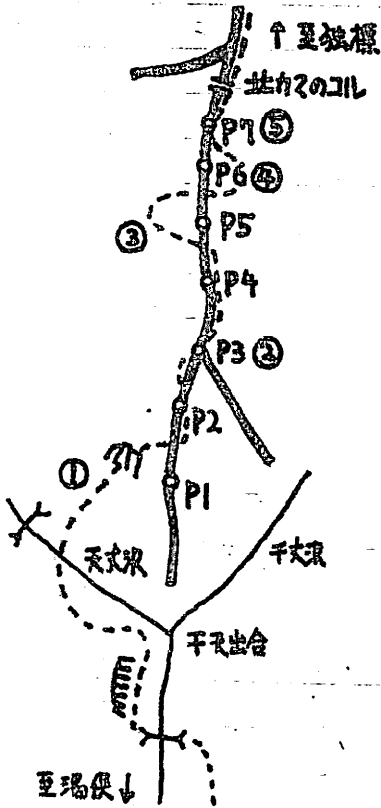
(記 河西)

櫛ヶ岳北鎌尾根 (12/29-1/2) L: 水谷 (S63卒OB), 豊田, 浦山

12/29 6:40 七倉① → 10:55 湯俣② → 14:20 干天出合手前 (T.S)

・湯俣からは水俣川を左岸沿いに高巻きを交えて進む。川辺の(枚岩のトナリ入を度切りに吊橋までFix箇所が連続する。(Fixは古いので信用できない)。吊橋は7ヤ-が片側だけかろうじて残っていて綱渡りを余儀なくされる。

12/30 7:10 T.S 籠③ → 9:10 P2の肩④ → 12:20 4.5のJL (先行有ルート降り→13:40籠) → 15:10 P7直下 (尾根上 T.S)⑤



① P2支線への取付は凍った流木で行う。(吊橋は7ヤ-のみで不可)。P2までは急登で、上部に小岩峰有、残置Fixと木を便って越えるとP2の肩。(結構広いT.S有)

② P3から岩が出てくる。(残ロープや針金があるが総村使用不可) ルートは天丈寄り。

③ P5へは、4.5のJL迄の小ヒコ-7より5M紐ストラケを下り天丈側の雪壁を大トラケアスする。(急傾斜でアッシュ混じり。降雪後はモロにナゲルそうな悪場) 細いリンセを直上しヒコ-7を巻くように登ると5.6のJL。(吹雪せらしの裸地 狭い)

④ P6へは JLから干丈側を斜上してヒコ-7を巻く。岩場で、モロに下が切れ落ち大変オソロシイ。P6に出る。

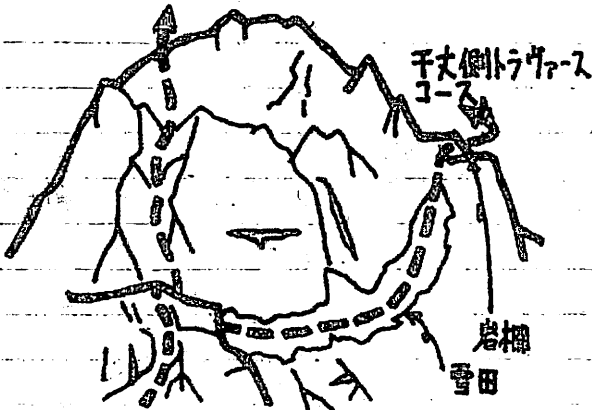
⑤ P7へはナゲルリッパ。先行がいて北カマのJLには張れそうもないのでP7直下のリッパ上でT.S

\* エスケープは4.5のJLまでP5の大トラケアスをしつと往路下山は非常に困難!

12/31 ド吹雪のため完滞 (風上にテントの入口をきつくるのはハゲハゲ)

1/1 8:00 T.S 籠① → 10:00 独標基部② → 11:00 独標 → 13:45 北鎌平 → 16:00 櫛ヶ岳 → 16:30 肩の小屋 (独標からきつとホ7トアウト)

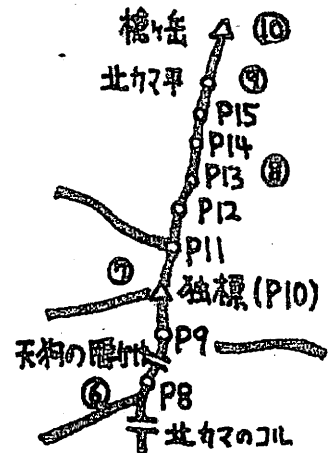
## 直上ルンゼコース



## 独標 (PI0) 2899m

- ⑥ 独標からは岩稜帯で天丈側は雪ヒ有。大小ヒコ7ヶ乱立し。1ヶ千治いか千丈側をかんで進む。各所に1張り分のT.S有
- ⑦ 北カマ平はムヤクヤ広く(T.S有)が入ると迷い易い。眼前には稜先をテテンと控えている。天丈側の尾根が吸収される辺に急峻なルンゼが伸びている所を取付き。
- ⑧ 取付から2P分くらい右上ると吹雪溜った大ポイントに出る。(B.S有)左に少し回りこんでルンゼを詰め10mくらい1ヶ千を登ると網の横から顔をホコエと出してオシマイ!

- ⑥ P7の下りは急でT.Sの有る北カマのコルへ。P8は始めリヤ千で後は11マツ混りのイカラシ雪壁。P9は千丈側にルートを換る。天狗のコルは余り広くない。
- ⑦ 独標のルートは2通り。尾根上の基部より凹角を直上するもの(40m Pくら)と千丈側をまくもの。我々は後者で。基部の雪の付いた所を大横断(不安定)し。雪田を右上る。千丈側を回りに。水平の凹角が核心。足下は切れ落ちていて大迫力!



1/2 9:10 ヒヤ氷下降 ⑧ → 10:50 橋平 → 14:00 新穂高 ⑧ ⑨

○ 凶大絶悪な独標を越え、風雪の彼方に垣間見た橋の姿は水墨画を見ている様に現実感を伴わず、羽で美しい女の手が届かぬ高みに居る様であった。… P5の大トラバースからは退路がなくなるので天候の読みとスピードが要求されるルートである。下半は木登りで独標からはアイゼンの前爪が主体となるが、第1級の11リエーションの名のごとく前後左右ともかきこも切れ落ちていて湯俣から稜先までヒリヒリまくりであった。(水谷さんはかれ出してくれない) 年来に入山したから他に5,6パーティーは最後の稜先は夏の橋のごとく順番手。 (天気はド吹雪) 時間も迫り頂上直下の狭いルンゼに全パーティーが突撃し、すむれの様なカイルをかいくぐって夜間の直る橋に立つ。水谷さんコーローさんのアローに99大感謝をしつつも最後にちびり悲しかたのは、新穂高で磁変尾根を登ってまた高校の同級生に遭遇してしまったことであつた。上には上々居るものである。

(記 浦山)

1ハ岳 阿部陀南稜～小同心右稜

兼岩、植垣、服部

1/13 ◎ 7:15 原村ペンション

◎ 12:15 2400m 付近 無名峰手前 T.N.

雪は、すねぐら!!

1/14 ○ 8:10 T.N

① 9:40 P3 基部

② 10:45 アミダ 山頂

◎ 11:50 行者小屋 T.N

P3のトラバースは、問題なし。そこから、Ⅲ級位の小さな滝を越し、  
ルンゼに登る。P4のトラバース、頂上直下のトラバースは、雪質が  
悪いと危ない。サイル使わず。

小同心右稜  
1/15 ⊗ 7:15 T.N

① 9:05 下部岩壁 登攀開始

(35+40+コンテ)

小同心にルンゼをつめ、左の小いせを少し急なルンゼ  
に登る。

途中、小さな滝がある。

正面から登るが、なかなかムスカシイ。(Ⅲ+)

上部岩壁(小同心 ~~ポイント~~) (35+30+コンテ)

技術的には、問題なし。ピンは見つけ  
にくい。

頂上直下凹角 30m

7mmのみのみ!! やすい!!

② 12:40 横岳 頂上

③ 13:45 行者小屋 T.N

④ 16:30 美濃戸

小同心右稜は、なかなかおもしろかった。小同心の  
N-ポイント～ルンゼ～ピークと高度感がある。  
岩もかたく、ホールドも豊富。

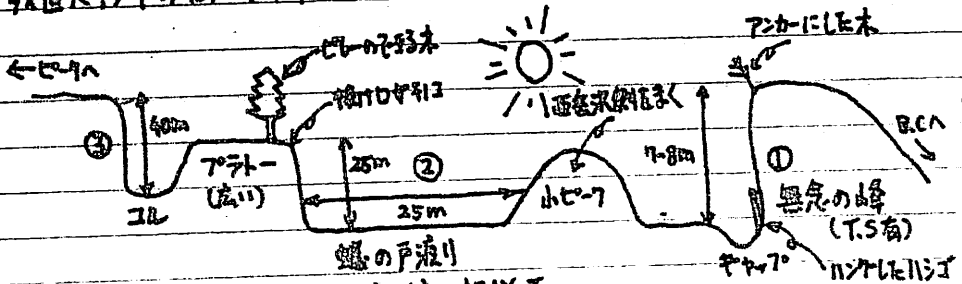
(崇岩)



# 戸隠連峰西岳PI尾根 (1/13, 14) L: 下平, 浦山

1/13 7:50 上楠川③ → 10:30 天狗原 → 13:20 熊の遊び場 (B.C) ②  
 ・ B.C 迄 岩峰が3つ有。1つ目は凹角をクサリで登る(エケイ) 残りは巻く。

1/14 7:30 B.C 登り① → 10:00 無念の峰 (J.P) → 12:50 PI 頂上 → 14:50 B.C ②  
 → 17:50 上楠川③ : 上りコンテとスチレット(3P), 下り 懸垂 (4P)  
 ・ まづ B.C から雪壁を詰めると傾斜のきついアッシュ帯にあたる。右にトラバースして  
 残置スリッパの樹、たす所を直上する(30m) 抜けたら左のレンゼに移る。



## PI 尾根 核心部 断面

- ① J.P の下りは 7-8m のかぶりさみの垂壁。クサリもあるが途中からでしかも横から伸びていて全面的に使えない。降り口はキヤアになって短いハンカチしたハンコがある。支点になる木を堀り出して懸垂した方が無難。我々は下りのことも考えて J.P の細いカン木に 6mm ロープ 5m を Fix (残置) する。(PI 中 1 番の核心部である)
- ② 戸液りは幅 1m 程の堀の上に雪が積って干いている。右側は雪ピ。抜けると壁があり、中央の凹角を登る。(7ヶ所有) 今回抜け口がキコ雪になって、右に少し回りこんでキコをア干壊してアッシュに出る。戸液りと合わせて (50m)
- ③ 最後にもう1つ壁があり正面やや右の凹角を登る。7ヶ所有 (40m)。あとは傾斜が落ち、頂上直下は左寄りに登り雪ピをア干壊して PI に立つ。

○ PI は対面にスキー場を控え放送がうるさく感じるが、隠し玉のハンカチやキコ雪連登する核心。クサリを見つけたスリッパなど変化に富んだ大変難いおもしろいルート。雪壁が厚く、全日の降雪で壁とキョーが倍増した。故に先行トレースがあると面白みが半減するだろう。下山中遭遇した4人組のオチヤン達は楽しめた分ならなかに違いな。2人パーティならキイルは 50m 1本で充分。岩は赤ロ赤ロだからハンカチ類は持っていくだけ。時間があれば初日は J.P まで上ると次の日ケラク。尾根は細く良い下りがないので大人達は不向き。今回ワイルドに夏用ジャラで気合を入れたが雪洞も壊れる。おまけにハースだったから無意味で悪い思い出した。た。

(文責 浦山)

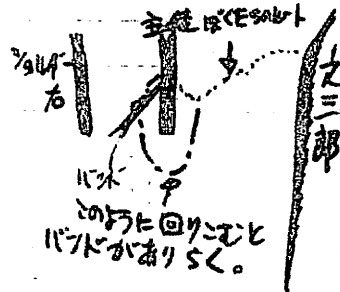
11ヶ岳 南沢中滝(俵林) L下平.内田.牧野.河西.小滝.橋口

1/28 ○ 南沢大滝は南沢の夏道が沢からはなれて高ま。再び南沢に戻り所から左岸に入。75分。美濃戸山荘からは1時間。中滝は17-干か18m。トッポローは左岸からまくと容易にかけられる。

11ヶ岳 西面 L 服部 兼岩  
2/10 ○ 13:20 美濃戸  
○ 16:20 行者小屋 B.C

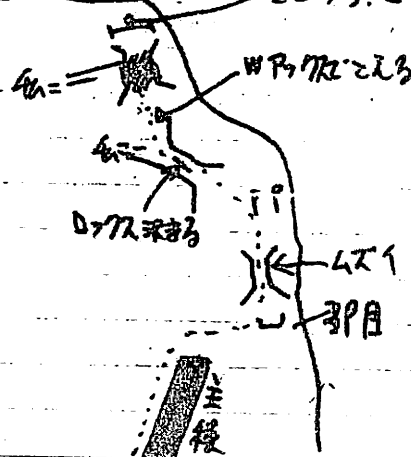
2/11 ○ 7:10 B.C  
○ 8:00 文三郎からトリスする地点で樹退  
○ 8:30 B.C  
この日はかなりの湿雪でやばそうだった。

2/12 赤岳主稜  
○ 7:30 B.C  
右にせ側から取付く  
○ 8:40 登攀開始  
2P+コンテ+1P+コンテ  
(30+45) (50)  
○ 12:05 赤岳主峰  
○ 12:50 B.C



1P目. 4mニ一の左を回りにみバッドにでる。残置ツルケ有。  
2P目. 垂直の凹角を登る。ピン有。  
コンテ. 凹角15m. ナイフエッジ 鋭い。  
3P目 かなり波い。

主稜の脱着 二から. ピークまで問題ない。



赤岳主稜は. 恐くて楽し  
かった。また. 浮石は. 多い  
ので注意。  
フリーヨのおじさんには.  
急がた。  
(兼岩)



# 2/13 石尊楼

06:40 B.C

07:50 下部岩壁登攀開始

2P + コンテ + 2P  
(45.20) (35.40)

012:05 石尊峰

013:00 B.C

016:00 美濃戸

1P目 スラブに雪がへ、トリフいている。ピンも見当たらない。かなり難しい。服部さんが素手になってリード。

2P目 11からしい雪壁。  
この後コンテ。途中雪壁を左に入り、樹林帯へ。タイフエッジ手前で、サイルをきる。

3P目 快適な岩稜。ピン無。ロックの1.2番来る。

4P目 問題なし。

石尊は、主稜の10倍難しかった。初に者ルトなどと書かれているが、雪の付き方した11ではないかと思う。岩角で、ラフニックをきかないと、落ちた。今日、どうにか2本登れたことは、自分たちに大きな自信を与えたが、実力の無さをも、思ひ知らされた。天見に恵まれ、nice climbing

(華岩)

赤長北峰 リンジ L 小入保 長谷川

2/16 11:50 美濃戸 — 13:20 行着小屋 T.S

2/16 6:20 T.S (支三郎見根) — 7:20 取付つき — 7:50 登山開始  
雪のヒヤヒヤ  
ランセル解り

— 12:45 登ハシ終了 (世帯ヒヤ) — 13:00 下山開始 (地蔵見根)

SP  
コンテ

— 13:50 行着小屋 T.S — 16:30 美濃戸

リンジ末端まで下降するのめんどろい。左にせめて取付付かず、右にせめてより取付付く。取付付には黄色の残置が2つあり、有りゆかりがすい。1Pで左にせめてから1.5P(7.5P)にのぼる。ピンは少なくて、ハイマツは3.5Pのヒヤヒヤでヒヤヒヤ取付は多い。2P-3Pのテンドマンを1つとっていい。雪の状況はあまり良くない。力量的にも2年か登るにはちよとよく、2.5Pのヒヤヒヤでなる。

長谷川

# 鋸岳 ~ 甲斐駒ヶ岳

山 兼岩, 河西, 長谷川, 小久保

2/18 07:40 釜無川砂利置場

09:15 横岳峠下

ト中ヒ. えん堤有。7°11°小屋ト道がはきりない。

2/19 06:55 T.A

09:20 角兵衛沢のコル下

かす. てきたので. こまごとする。三角点トークの下りは.  
分かりにくい。角兵衛の頭の下りは. 11°や5°し。.  
稜線上で. ももまでのラッセル。

2/20 01/02 で 沈殿

2/21 06:40 T.A

コルの雪庇を小久保がかりみぬく。

09:40 視察

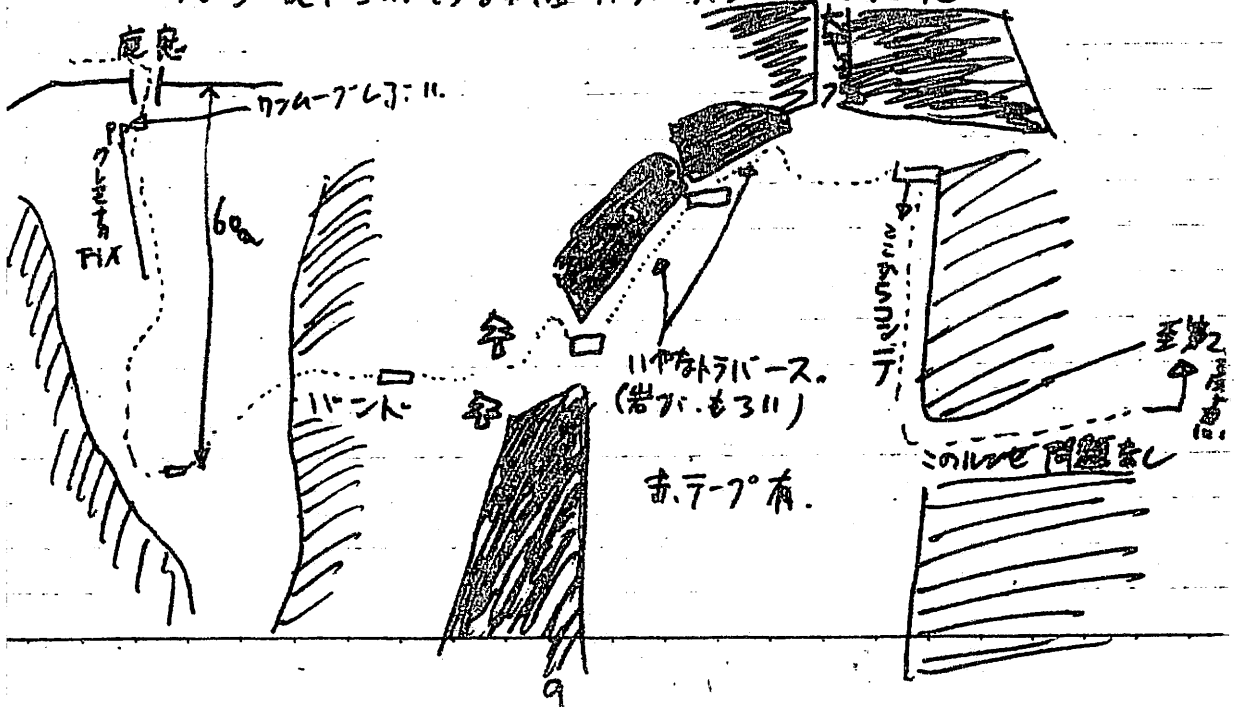
自力で上がる。

09:00 第2 高点

09:40 中川乗越

小キツアは. 10m の懸垂。そして. 草木つきを登る。

1/3 30m + 雪崩する斜面のトラバース 20m で 崖突



2/22 06:25 下戸  
08:05 戸川出合 熊穴沢H.問題をなし。  
09:35 戸橋

予想以上にきつハルトであった。大ギョ?  
は、悪天時入りンでは、ハケない。  
結局、2み丸は、おもしろハルトであった。  
な気がする (帯岩)

ハケ岳・中山尾根

↳ 服部・牧野・植垣

2/19

● 服部・植垣が行着小屋下.S.に入山。

2/20

● ショルター右を登る予定だったが、雨のため沈殿。テントの中に池ができて、水かきをせねばならなかった。

夕方、牧野さんが雨の中やって来た。

2/21

・中山尾根

6:15 O B.C.

7:00

中山尾根下部岩壁取り付き

(先行パーティ  
待ち時間)

先行パーティがいたためラッセル  
ドロボート。

8:30

登攀開始

服部さんがすり落ちそうになりながら  
もたふんとかリード。下部岩壁のくせに  
相当むづかしい。

11:00

2P 登ったところ、頭上にきらきら  
と光るトサカ状ナイフエッジに恐れを  
なし、敗退決定。1P 懸垂で取付き点へ。

12:00

B.C

14:00

美濃戸口

また行きましよう。

(記・植垣)

北アルプス 常念岳～燕岳

L 加藤 小久保 兼岩 橋口

2/25 ◎ → ●

8:00 林道発 — 10:15 三股T.S

三股の更衣小屋は地図に載っていないが、きれいで快適である。

26 ◎ → ⊗

6:10 T.S — 10:15 2170m J.P — 12:50 常念岳 — 14:00 常念小屋

T.S からクカンをつける。2355m で樹林帯を抜け、ここからアイゼンをつける。常念の下りから風が強くなる。

27 ◎

6:20 T.S — 9:20 大天井岳 — 12:50 燕山荘 T.S

横通と東天井はピークをまく。稜線はクラストしており雪は少ない。

28 ①

6:10 T.S — 6:40 燕岳 — 7:20 小屋発 — 9:10 中房 —

— 12:10 宮城

燕岳までは雪庇に注意が必要。中房温泉から宮城までは林道をひたすら歩く。

記 加藤

戸隠連峰 P3 尾根 L: 下平、豊田 (2/26～27)

2/26

6:40 品沢高原 — 9:00 ナマズ岩壁 — 10:00 マッコウクジラ岩壁 — 13:30 岩壁  
帯手前に S.H を掘る (後 1 P Fix 25m 人工からフリー出口は馬乗り) — 17:00 BC

・ナマズ: 右端ではなく稜線上の岩壁をノーザイルで登る。

・クジラ: 右へ回り込むという記述は約 5m 回り込むというらしいが、30m 程  
回り込みかなり難しい状態になった。次に 6m 回り込んでテラスに立  
ち、左側の壁はピンがあり人工とフリーのミックスで難しい。クジラ  
の次のピークへの壁は 2.5m 程だが少し悪い。

2/27

7:10 BC 発 — 9:50 P3 — 11:40 BC — 14:50 品沢高原

・Fix をのぼりバンドをトラバースするが悪い。バンドを詰めたところで直上し、  
3m の木登りで後は簡単。下りは BC 間でプッシュで 1 本と壁で 1 本懸垂する。壁  
は Fix 固定のところからコータローさんがさらに下るがとどかず、下の壁のリッ  
ジのところに掛けかえて下る。BC から下は 4 回懸垂。壁以外は 50m 1 本でとどく  
が壁の上からでは 2 本でもとどかない。

前穂高岳北尾根 (2/27-3/3) L. 浦山, 植垣, 長谷川

2/27 9:00 坂巻温泉 → 14:30 徳求園 ⊙

2/28 6:00 徳求院 → 12:00 北尾根8峰の頭 ⊙ (S.H)

・気温が高く雪が溶けていたのて時間はあつたが8峰にSNOW HOLEを洞る。

3/1 7:00 S.H院 → 10:00 7峰 ⊙ → 10:30 6.7のコル ⊙ (S.H)

・雪の林態悪く8峰からサイルを出して下げる。時間的には5.6のコルまで行けそうだったが雪も降りきたので6峰に2P FIXし6.7のコルにS.Hを環る。

3/2 6:00 S.H院 ⊙ → 7:00 敗退決定 → 12:00 8峰 → 18:00 徳求 ⊙

・北尾根は往路下山しかないので、荷を軽くし、スートア-70を計らねばこの先の悪場は越せぬと判断し、最低限の装備と3日分の食糧を持ってS.Hを出るが、多量の降雪で雪の状態はさらに悪く、回復の見込みが立たぬことからFIX終了点まで登り下山することにする。

・K0尾根は登りはたまた登るだけの易い尾根だが、下りは樹林帯で多数の枝尾根が派生しているため迷いやすい。特に2154mピークから下は赤旗を見失わないようにしなければいけない。また8峰直下は降雪後+70程度の斜面なので注意が必要!

3/3 9:30 徳求院 ⊙ → 14:20 坂巻温泉 ⊙

○ 連日続いた高気温と降雪で林態の悪い雪質の処理に手間取り、予定を程んど消化出来ずに敗退してしまつた。さらに下りのK0尾根でルートを見失ってしまったことなど反省すべき点も多々山行であった。徳求の石瀧さんの超ウルトラ盛大なおもてなしには大々感謝。  
(記 浦山)

八ヶ岳 L: 下平、小滝 (3/1, 2)

3/1

8:55 美濃戸口 — 10:45 赤岳鉦泉BC — 11:10 中山乗越で雪訓 (スタカット、コンテ、グリセード) — 13:30 BC

3/2

下山

剣岳早月尾根 (3月4日~3月7日)

L 松下 小久保 牧野 加藤

3月4日 ⊗ 伊折 → 馬場島 T.S (12:50)

雪の中を伊折のゲートから1時間歩いた所で県警の車に拾ってもらい馬場島に着いた。今年は特に雪が少なそうだ。

3月5日 ⊙ → ⊗ 馬場島 T.S (6:00) → 伝蔵小屋 T.S (12:30)

県警のトレースがありたいしたラッセルもなく小屋についた。

3月6日 ⊙ ⊙ → ⊗ 伝蔵 T.S (6:30) → 剣岳頂上 (12:30)

→ 伝蔵 T.S (14:00)

県警が訓練中だったこともあり、エボシ岩、シシ頭ともFixがあり、それを使わせてもらった。どちらも池谷側を巻くことになっており、雪崩には十分気をつけた。稜線通しに行くことがシビアであると思われる。カニのハサミ直下のトビースからの登りは雪崩のようなでザルを出す。翌日にここで県警の隊員1名が雪崩で行方不明になった。カニのハサミを過ぎるとやさしい岩稜となり赤旗をたよりにピークに着いた。風が強いのですぐに下り始めたが、しばらくして雪が降りだしホワイトアウトになってしまった。しかし親切な赤旗のおかげで迷わずして小屋まで下りることができた。この尾根はガスると下降が特に困難になるので赤旗をたくさん用意すべきであったと思う。

3月7日 ⊗ → ⊙ 伝蔵 T.S (8:00) → 馬場島 (10:00)

→ 伊折 (12:40) → 下山

雪と雨の中を急いで下山した。伊折のゲートにタクシーを待たしておいて上市まで行った。う～ん、雪の剣はかよかた。

(松下)

中ア縦走 (3月8日~)

L 長谷川、植垣、服部、小滝

\* 遠征費、詳細は報告書で行う。

## 南アルプス縦走 L 豊田・内田・河西・田尻・藤江

3/1 飯田線平岡駅からマイクロで易老渡へ入山

◎7:25 易老渡 —— ◎10:00 面平 —— ◎14:10

易老岳手前 2254 峰付近 TS

2000 米を過ぎるところから湿、大雪がふりだし風も強くなる。  
尾根上には赤テープがたくさんあり迷うことはない。ワカン着用。

3/2 ◎7:00 TS —— ◎7:30 易老岳 —— 風雪 10:40 イザル岳  
—— ◎13:00 TS

易老から光にかけてはマーキングもほとんどなく、尾根も広い  
所があるので慎重なルートファインディングが要求される。イザル岳  
岳のピークで風雪が強くなるので光をみせため TS にもどる。

3/3 ◎7:30 TS —— ◎8:00 易老岳 —— ◎11:30 希望峰  
—— 風雪 13:00 茶臼岳 —— 風雪 14:10 茶臼小屋

樹林の中をワカンをつけてひたすらラッセルする。二重山稜は  
い所もあるが易老～光間はルートファインディングはやさしい。  
希望峰とこえると突然ハイマツの山稜となり風雪にたたかれた。  
茶臼岳の下りはコンパスでルートを確認。

この日、カモシカを至近距離で目撃。ラッセルのスピードは人間様の勝ち!

3/4 ◎7:50 茶臼小屋 —— ◎8:10 主稜線 —— ◎10:30  
上河内岳 —— ◎14:30 聖平小屋

御花畑付近でワカンでヒザまでのラッセル。竹内門でアイゼンにはま  
かえる。この辺は顕著な二重山稜で、県境の山稜にルートをとる。頂上  
はピストンする。上河内岳から 2702 峰までヤセ尾根が続く静岡  
側に雪庇が出ているので注意すること。この日のコースは晴れて  
は問題ないが、視界がなると上河内岳周辺の二重山稜、2702  
峰からの下りなどがわかりにくくと思われ。

3/5 ① 7:00 聖平小屋 —— ② 8:00 2478峰 —— ③ 聖岳 11:00

—— ④ 14:25 兎岳避難小屋

聖の登りは強風で苦労したが、技術的には問題ない。聖～兎間はザイルも出すことなく通過できたが、ナイフエッジや、雪壁、ほい所が長く続くと結構エグイ。雪崩には要注意。

3/6 ① 7:00 兎岳避難小屋 —— ② 9:00 中盛丸山 —— ③ 10:30

大沢岳 —— ④ 11:40 百間平 —— ⑤ 14:25 赤石岳避難小屋

百間平から夏道のトラバースの始まる所までは尾根がヤせている。赤石の登りは夏道が使えないので直接県境を登る。ザイルは出さなかったが、一ヶ所雪崩そうなる所があり注意。赤石は頂上の地形が複雑である。小屋は頂上の南の窪地にある。

3/7 沈澱

北海道西の低気圧からのびている寒冷前線の影響で朝から強風、視界不良。この日は湿っている雪が小屋の入口に50cmほど吹雪たまった。

3/8 ① 強風 7:30 赤石岳避難小屋 —— ② 強風 9:00 大聖寺平

—— ③ 強風 11:20 赤石岳避難小屋

寒冷前線が抜けた影響で南～西の風が強いが稜線上は風で雪が飛ばされクラストしている。2850mの台地から大聖寺平にかけてはツボ足で20～30cmほどもぐる。大聖寺平では山稜に強い風がおたり(風速15～25m/s)雪煙があがる。上空は晴れていて伊那の方は青空が広がっており中央アルプスがはっきりと見える。大聖寺平から荒川岳方面に100mほど進むが、満足に歩ける状態ではないので赤石避難小屋にもどることにする。3000米をこえるころから風が一層強まり視界30～50m。往路のアイゼンの跡をたよりにもどる。帰路に一年生2人凍傷になる。赤石岳の雪底はかなりデカイので注意。



3/9 ①6:50 赤石避難小屋——①8:00 大聖寺平——①10:30  
荒川前岳——①14:15 高山裏避難小屋

大聖寺平からは県境の稜線を行く。小まっぴーを2つこえると灰色の岩峰があらわれる。左右どちらの斜面からも登れるが右にルートをとる。頂上直下に3ヶ所ほど悪い所があるが、ザイルを出すこともなく前岳の頂上へ。頂上からは鋭いナイフエッジを水平距離にして300mほど行くと下降尾根(途中に2693の標高突がある)とのジャンクションにつき、この尾根を2600付近まで下降する。この辺からタケカンバがでてくるのでカールの底をトラバースして、対岸の針葉樹林帯に入る。

3/10 ①6:40 高山裏避難小屋——①9:00 大日影山——①12:00  
小河内岳——①15:00 三伏峠

板屋岳からは直角に西に曲り大日影山へ向う。稜線を忠実にたどると結構 up-down があるので一定の高度を保ちながら静岡側をトラバースする。前小河内岳(2784)と烏帽子岳間に雪成が稜線。

3/11 内田、河西は塩見、北岳、夜叉神峠へむけ縦走を継続。

豊田、田尻、藤江は凍傷治療のため鹿塩へ下山。

①6:34 三伏峠——①8:00 本谷山——①12:30 塩見岳  
——①14:35 北荒川岳TS。

三伏～塩見間は他パーティーのトレースがありたすかる。塩見小屋あたりからアイゼン着用。塩見の下リヶ所鋭いナイフエッジがあり緊張した。TSは静岡側に200米ほどいた針葉樹林の中に設置。

①6:45 三伏峠——①9:16 塩川小屋——①11:05 鹿塩

三伏峠～塩川小屋間はトレース有り。登りはハートでしよう。  
(藤江談)

そのとおりです。(カサイ)

3/12 沈澱

テントの周辺は雪が吹きだまり。朝夕、2回雪かき、時々雷も鳴る。

3/13 ① 7:30 北荒川岳 TS ——— ② 14:15 熊の平小屋

稜線上のハイマツ地帯では風が強い。小屋へのトラバースを開始する地帯をまちがえて苦勞した。この日は樹林の中で高低差もすくない行程だったが、新蛇坂山の手前から雪崩直前の「ズン」という音を何度もきいた。

3/14 ① 6:50 熊の平小屋 ——— ② 9:25 間の岳 ——— ③ 10:35

北岳山荘 ——— ④ 11:50 北岳 ——— ⑤ 16:15 池山御池小屋  
間の岳の頂上直下がやや悪いが静岡側をいけば問題ない。  
北岳へは吊尾根との分岐にザックとおおピストン。分岐から吊尾根上にでるまで100米ほどトラバースするが降雪直後はいやな所だ。ハ本歯はザイルを出ることなく通過。池山小屋は新築されていた。

3/15 ① 7:30 池山御池小屋 ——— ② 9:00 野呂川 ——— ③ 9:45

鷹の住山吊橋 ——— ④ 11:30 林道 ——— ⑤ 13:30 夜叉神峠登山口 ——— ⑥ 15:30 芦安村バス停

吊尾根はマーキングがたくさんあり迷うことはない。路面が凍っていたため末端までアイゼンを着用。野呂川の林道にでてからも落石には充分な注意が必要である。

3/16 ① 7:30 池山御池小屋 ——— ② 9:00 野呂川 ——— ③ 9:45

鷹の住山吊橋 ——— ④ 11:30 林道 ——— ⑤ 13:30 夜叉神峠登山口

⑥ 15:30 芦安村バス停

3/17 ① 7:30 池山御池小屋

南アルプス春山登山隊における凍傷の報告 田尻 英成

3月8日(木) 4:30起床。天気は晴れて遠くの方に雲が見えるが、強風ととも  
に地吹雪がまよっている。風は強いが、天気が晴れているので、7:30に行動開始。この時  
ついでにルカロンが、両手中指が先の方が切れているのと同じく、無理に行動して  
た。しかし風がさらに強く9:00に敗退決定。中指がふぶきまみれ(2)になり、くる  
が、氷のついたオビで手袋のなかで必死に振りこがしをつくる。元の糸織物で手袋を  
はいてくるといいが、糸がほどける。

翌日に、両手の中指に水ぶくれができていた。無理に行動しては、その夜に  
先輩の指示で三伏峠から鹿場まで敗退お様に計された。

3月10日(土) 三伏峠～鹿場の敗退。パートナーが上。豊田、田尻、おと、同じ様に  
凍傷した。藤江と決定。3月11日(日) 下して、松本にまでると、即、松本駅21時48  
の藤森病院の手にかかた。水ぶくれのことで第2度凍傷で、水ぶくれをいって、水を抜  
けらる。ナメコについたガゼをぬいてもらう。それからしばし通院して、ガゼを換  
えてもらうが、3月20日(月)には退院した。

今回の凍傷事件は、ルカロンが破れていたことに全く気がなかつたのが  
何よりの原因である。手袋の種類は、おからは、山行靴にしたいとついていたが、ない  
いけな。また破れているのに気がなかつた。無理に行動して、ルカロンの  
替えをさぐ用意しなかつたこと、の様な自己管理が徹底しなかつたこと、また  
凍傷にあって、無理をしないで、先輩にいわれて、敗退したように、凍傷の知識と  
ともに数回的に自分を見なかつたことが原因に揭げられる。この当り前、用心  
なことをしなかつた点、深く反省しなければならぬ。

凍傷にまた3月8日は低気圧の通過にともない冬型の気圧配置  
となり、西からの風が強く、青空がひろがっていたが地吹雪が吹かされた。そ  
の日の行動予定は赤石避難小屋が高山裏で出発したのは07:30だった。あ  
まりの風の強さと出発直後が日出帽を下げたので大聖寺平に着いた時は  
両頬が少し痛がた。そこから引き返すことになったが風はさらに強まり、ガスも出てき  
て非常にこわがた。11:30に小屋に降り着いた時は両頬が熱く感じ。

凍傷にまた最大の原因は日出帽をきちんとかぶりなかつたのと、当日着用しての  
登山の雨具はWヤケト比バ、フードや着まわりのが少なくて、たことだと思う。  
又、冬山の経験が少なく、悪天候下での行動の際の精神的余裕の  
不足も影響はと思う。凍傷にまたのが原因であつたため、程度がわからず、  
おとをつぶしてしまひ、化膿してしまひ。(藤江)

## 春の南アルプス総括

今回は15日間という長い山行となり、普段の短い山行では得難い教訓がいろいろ出てきました。これらを忘れず、今後には活かすため、多少長くはなりませんが、ここに示します。

### 1. 積雪期の南アルプスの特徴

南アルプスの天気は北に比較するとおだやかなように思われがちだが、荒るときはやはり大荒れになる。東海沖をかすめるように通過する低気圧も油断ならない。特に寒冷前線が通過した後は上空には青空がみえていても、稜線は地吹雪で歩行困難になることもある。樹林帯に入るといえば大丈夫と思っても、尾根が広かったり、樹林が深いので夏道がわかりずらく、マーキングもあてにならないところがあるので、コンパスで進路をすめに確認することが大切である。

計画を立てるときに注意しなければならないのは積雪期でも正月ころと2月末から3月にかけてでは雪の状態がかなりちがうという点だ。正月ころの南アは雪が少なく、降雪直後でないかぎりラッセルも春にくらべればかなり少なくてすみそうである。しかし春は東海沖の低気圧の影響で、湿った重い雪に苦しめられる。特に聖以南にこの特徴がでやすいように思われる。他パーティーの記録を参考にすると、このことに注意しなければならない。

### 2. 計画について

1で示したことを考慮して力まかせの計画は立てないよう。具体的には1日で易老から光をピストンして茶臼小屋に入る計画だったが、これはする2日かかってしまった。また白峰三山をうまく行程に入れることも大切である。天気さえよければ、1日で熊の平

から間の岳に登り農鳥岳をピストンしてその日は北岳山荘泊り。次の日に北岳から西俣を経て、仙塩尾根上にTSをあげることも可能である。それから南アも林道やダムの開削で年々変化しているのでアプローチや、エスケープもそのつど検討するとよいと思う。(三伏峠に林道を通すという計画もあるようだし……) 今回は入山口に飯田線の平岡駅から遠山郷を経て易老渡入山のルートをとったが、これはニ合マル。林道が西沢渡まで伸びていてタクシーがかなり奥まで入れるし、時間やカネの面から考えても静岡側よりが便利である。日本のナムチエ・バザールといわれている遠山郷を見るのもよい経験だろう。

エスケープルートについては大聖寺平から小渋川におりるルートも採用してもよいと思う。(ただし、徒渉が多く、ツメタイ)。赤石岳から樺島へは、ウツダの背への分岐がわかりやすく技術的にもやや高度なものを求まられると思われるので、天気の良い日はちょっと下る気がしない。

小屋についてはかなり開放されていてとてもありがたかった。また小屋の日記に自分のことを積極的に書くようにしよう。万一の事故の際には、かなり有効に使えるだろう。

## 装備、Essen.

登山にはタンロックを使ったが、ポールが絶悪である。吹雪の日には徹収できるのは凍傷で指をなくすようなもの。ジョイントのゴムが破れて凍ってしまい、ポールがはさまらなかつたり、凍りついて振り回して温めたりした。強度はともかく、他の面ではカーボンの方がよい。火袋は5人くらいならEPIよりホブスの方が断然よい。ガスポリに1.5Lのペットボトルを使用した。耐久性がよく、入力の心配もない。スグレものである。利用価値は大い。

ラーメン1人1.2人分、α米5人で3袋だった。かなりなにかかった。レシヨンはいつもどおり、調味量はいろいろ。

#### 4. 行動をふりかえって

今回の山行中の行動で、特に問題があるとすれば、3月8日の行動と、三伏峠におけるパーティーの分割である。

前者は、寒冷前線が抜けたのでもう……だろうという判断が甘か、下よりに思える。行きは強風下でも晴れていたのに帰りはガスの中。視界10~20mで、横なごりの雪というのは、南アの主脈に局地的にかかった雪のせいでと思われる。この日の天気図を見ると三陸沖には992mmbの低気圧があり、上海沖には1026mmbの高気圧がある。この2つの間に強い気圧差があるため、西の風が強くなり、雪の初動をはやめていたと思われる。こういう日に天気を予想するのはとてもむずかしいが、この経験を無駄にせず今後には生かしていきたい。

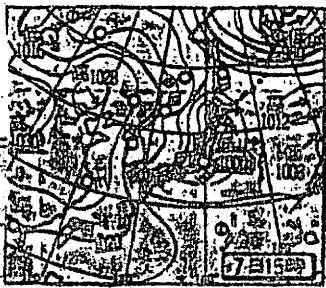
パーティー分割については、南アの縦走というように長～山行ではなるべくやめるべきである。ただ今回は片方はすぐに下界につくということ。他方も4年生と2年生ということだったので大丈夫だと思ったが、極力やけたい。また縦走を継続するパーティーも赤布(SAC, 信大なり記名がなければ意味がないのだが)を残置するべきだった。

#### 5. 雪崩について

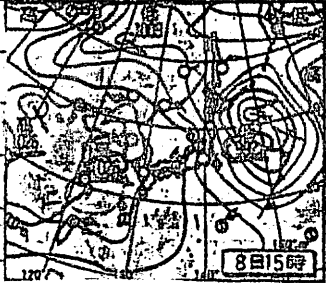
今回のコースで雪崩そうだった所をあげておくと……次の3ヶ所になる  
① 聖岳～鬼岳間 ② 百間平から赤石岳への登りの最後(県境コース)  
③ 荒川前岳から高山裏向のカールの横断。その他の所でも油断しないこと

また3月13日のことは少しくわしく書いたので……この日の行動予定は北荒川岳のTSから熊の平までであり、行程としてはup-downもなく体力的にも楽であった。雪崩に関して、地形、植生からみて問題はなかった。しかしこの日1時間に2~3回の割合で“ズン”“バン”というあの雪の動く不吉な音を身にした。今あらためて当日の天気図を見くらべてみると、気圧配置も温度の変化も酷似していることがわかる。

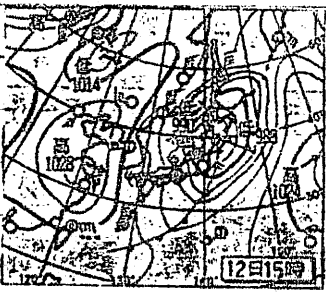
中アの事故当時と



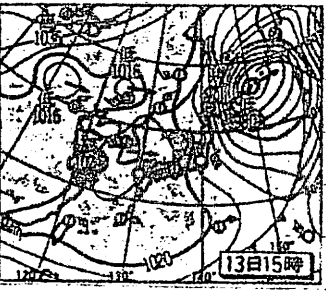
|    | 最高          | 最低          |
|----|-------------|-------------|
| 静岡 | 15.0 (↑1.6) | 2.1 (↓1.6)  |
| 甲府 | 14.7 (↑2.5) | 1.1 (↑1.1)  |
| 長野 | 11.7 (↑5.0) | -2.1 (↑0.6) |



|    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 静岡 | 12.2 (↓1.2) | 2.5 (↓1.2)  |
| 甲府 | 10.5 (↓1.8) | 1.6 (↑1.5)  |
| 長野 | 2.5 (↓4.4)  | -2.6 (↑0.1) |



|    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 静岡 | 18.7 (↑4.8) | 11.3 (↑7.2) |
| 甲府 | 18.1 (↑5.1) | 7.7 (↑7.2)  |
| 長野 | 11.5 (↑3.7) | 6.2 (↑8.4)  |



|    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 静岡 | 13.8 (↓0.2) | 2.4 (↓1.8)  |
| 甲府 | 11.6 (↓1.6) | 2.9 (↑2.2)  |
| 長野 | 6.2 (↓1.9)  | -1.8 (↑0.2) |

カッコ内は 平年差

これを偶然の一致で済ますことなく教訓としたものである

おわりに、長期の縦走は精神的にゆとりを持つことが大切ではないかと思われる。今回もアスのバンドルと足を忘れて、プライヤーと六角レンチで代用して、いろいろ困難はしているが、知識をいぼって最期までがんばりましょう。

(河西)

# G.W. 合宿 穂高岳未定着

〆 浦山 〆 小久保 松下 牧野 植垣 河西  
 兼岩 加藤 長谷川 橋口 田尻 藤江

5/2 ①6:40上高地 — ②9:10 岳沢 B.C

10:30~14:30 雪訓

5/3 予定では、2パーテに分かれて、西穂、東穂をピストン。  
 天気図から午後より天気が崩れそうなのと、西穂の経路が、  
 えぐそうなので、ジャンタルムピストンに変更

①5:10 B.C — ②7:00 天狗のコル — ③9:00 コブの頭

— ④6:20 天狗のコル — ⑤11:30 B.C ~ 14:10まで雪訓

早朝の天狗沢は、全然もぐらない。しかし、帰りには、もも  
 でもぐった。扇岩のブロックが今にも落ちてきそう。さっさと  
 尻セドで下りてきた。雪崩の危険有。扇岩、頭打FIX(28,30m)  
 雪訓中、滝沢大滝で、でかい雪崩があった。田尻がアセのため、  
 牧野と共に天狗沢をそのまわす下りる。

5/4 5/4.5と雨が降りそうなので、雪訓して下山することにする。

①5:00 ~ 7:00 雪訓

②8:00 B.C — ③9:30 上高地

今回のG.W.合宿は、悪天のため登攀ができない物足りない  
 ものであった。仮に、登攀にいったとしても、下降路の天狗沢の  
 状態が悪いのので、状況判断が難しい。G.W.合宿として  
 やるのなら、もう少し考えて、~~扇岩~~地域、形態を求めた方がよい。  
 (兼岩)

## 装備の反省 藤江

今回岳沢定着ということもあって、フライは持っていかなかったが、シビアなところで  
 は、やはり春山にフライは必要。早めに注文・購入して来年にそなえたい。プスのチェク  
 クは前日では間に合わないこともあるので1週間ぐらい前にやるのが良いと思う。

|     |      |            |            |
|-----|------|------------|------------|
| 消費量 | ガス   | 4・6 / 6路   | 約58cc / 人泊 |
|     | メタ   | 78 / 100本  | 11本 / 泊    |
|     | ローソク | 3・3 / 3・5本 | 0・1本 / 泊   |

残置装備 なし

## ESSENの反省

essenを冬合宿の時と同じ様に考えてきた。定着なのである  
 から、もと、野菜などを入れた方がよかったと思うし、肉も入れた方が  
 良かったと思う。あと、カレーのと、ミロネグ、たけのこ、ほうろく、  
 と思う。もと分量をピニアに考えればよかった。また、カレーとミロネグを  
 忘れていたこともよく反省せねばならない。(はたけ)



## ・個人の反省・

No.

この春は遭難という大事を前に、クラブの山登りの姿勢を問われることになった。今まで只漫然と行ってきた結果であろう。自分はもちろんだが各人が一度原点に立ちかえて考えてみる必要がある。GWはそうしたショックがまだ抜け切らぬままでまるで成果の上がらぬものになってしまっていた。これからの新生SACとして皆で力を会わせて頑張ろう。

浦山

・地域研究が不足していた。来年は、  
定着再々試みた。これからはよくても  
エマは外登はしない。  
マキ

今年の春山はGWも含めて何もできなかったが、初心にかえて山登りとは何ぞやということも今一度考え直すことが必要ではないかと思う。もうすぐ新入生も入ってくることだしみなさんががんばりましょう。  
(松下)

## G.W. 合宿反省

- ・もう雪の上はこわくて歩けないのではなにかと心配したが、結構楽しく歩けた。
- ・まだフィックスワークがおそい。

## 植垣 健太郎

- 今回の合宿は久しぶりの山行であった。また入山前から天候が悪いことが予想され、「登れないだろう。」という気持ちが強くなり、緊張感を欠くものとなってしまった。雪訓を多くやれたのはよかったが人数の少ない雪訓はさびしいものである。あと、この季節は雨が降るので冬のフライは何とかしなければならぬと思う。
- 加藤

今年の春はクラブとしてはいろいろあったが、個人山行は南アの縦走のおかげで充実していたと思う。Fixこそながたが、雪山縦走のすべての要素が入っていたため、リーダー部員になる前の総仕上げといった意味でとてもよい経験になった。これからは自分の力を過信することなく慎重な山行をしたのもんだ。

河西貴史

### 春山・G.Wの反省

事故前の山行は、雪崩に対して、あまりにも無神経ではなかったかと思う。無知ほど、恐いものはない。山における様々な危険に対し、謙虚な気持ちを持って望みたい。G.Wは、登攀ができません残念。  
(兼岩)

### G.W合宿の反省

個人的な都合で入山が遅れてすみませんでした。個人としても会全体としても地域研究ができていなかった山行だったと思う。

### 春山の反省

今年の春山では様々なことがあり、自分にとっての山登りをみつけたおち心要がある。

長谷川

### G.Wの反省

天狗沢の下りの時、1人だけ遅れました。日中気温が上がり、クローラにいることはたいへん危険なことである。このことは、深く反省せねばならない。

—はしロー—

### GW合宿の反省 藤江

一冬越せば雪訓技術もなんとか身につけているだろうと思っていたが、実際はまだまだ満足のものではなかった。せめて新人合宿までに理論的な面でのしっかりした理解と新人への教え方をマスターしておきたい。会の推進力となるには体力も十分ではないのでトレーニングにはげみたい。

春山山行の反省 藤江

GW合宿についてはそちらの反省文のとおり。南ア全山では自分の不注意から、凍症になってしまいパーティーに迷惑をかけてしまった。新2年生の姿勢で山行に臨んだつもりであったが上級生にひっぱってもらったというのが実際だった。無雪期の偵察・研究やトレーニングを重ねて再度挑戦したい。

作文コーナー!

信州に来て1年たちまち

在. 田尻 英秋

5月某日・おかげさまで信州に来て1年たった。そして今は伊那の学生生活で

ある。教養に単位残してるけど、

農学の授業は実習がなければ3コマで終わる。けど今は色々用がたてて学校終わ

ると家にくまふいてはもよおして色々と行きたい。けど足は自転車しか

ない……

5月某日・新入研修期間ゴールの合同贈った。ちょっと着いたよ、と思うことは多い。

"1年たっては、ス……増えるものは年齢と事務的なあれ、たどたどしくケース下降する

学生のみんながFreshに見え今年もみんなとこぞで頑張りてくれるかな……

アツカな2年だけじゃなく、ヨロシク、と心の内でかみめろるのである。

(3)

春山の作文

春山は、あんまり力が春がたのであんまりかたことはないが、  
雪山はたいへんだらうということはおしるべきことだと思っ  
た。雪がたからた、そのため、力がたっているのである。それだから  
体力がないとたのしめないのだ。でもそれだけ、春は体力のない  
私にもたのしめた

— 1710 —

作文 藤江

冬合宿の雪倉、南ア全山の赤石での沈殿の時に作った替え歌です。松本花見コンパ・新歓コンパですすでに発表したらしいのですが酔っ払っていたので記憶にありません。あらためて紹介しておきます。

- 1 医風の校舎を前にして/今日も猥談に花が咲く/拾ったドーナツ食いながら/ああ信大信大山岳会
- 2 一年虫けら二年はドレイ/三年で人間四年は神様/封建制度が生きている/ああ信大信大山岳会
- 3 山学同志会いまは落日/カモシカ同人パラパントばっか/恒男や裕示にや負けないぜ/ああ信大信大山岳会

メロディーは当然『松電バスの歌』です。下線部はアドリブきかせましょう。

積雪期からGWまでの山行報告

印刷・発行：上田、長野部会

1990年6月30日

信州大学山岳会